

二年後に合理的配慮が始まります!!

みなさんこんにちは。二学期は色々な行事がたくさんあって、あっという間に年末?! 時のたつのは早いですね。さて、今回は二年後に始まる「合理的配慮」についてとりあげます。合理的配慮にも色々ありますが、例えば教育現場での合理的配慮ってなんだろう?

これまで リーブスで取り上げてきたさまざまな個性・・・世の中には本当にいろんな人がいます。字を書くのが苦手だけど“タブレット”などを使ったら授業だってみんなと同じようにすすめられる。視覚過敏で教科書の白地に黒の字が、テカテカして読みづらい。でも、カラーシートを使ったらみんなと同じように読みやすくなった。もっと広く言うと・・・自分の気持ちをうまく伝えられない。相手のお友達も分からなくて困っている。でも、支えてくれる人がいて 伝えたい気持ちを助けてくれたり 話しやすい環境を作ってくれたおかげで伝わった!! など。「合理的」ってきくと、どちらかが無理をして誰かに合わせたり、我慢して成り立つのではなく、お互いが歩み寄って成り立つ良い方法なのでしょう。環境が少しずつ「合理的」になることで、相互理解につながったり助け合ったり。今、問題になっていることだって少しずつ良くなるかも知れません。(^^)。

今回はそんな「合理的」に期待しつつ、どうして「合理的配慮」の概念が出てきたのかお伝えします。

合理的配慮とは?

2016 年から、「苦手なことがあるため、毎日の授業や試験で起こる不利益」をなくすための「合理的配慮」をしていくこととなります。

合理的配慮って何でしょう?

たとえば、入学試験の時に、必要に応じて

試験問題を点字や音声で用意する。

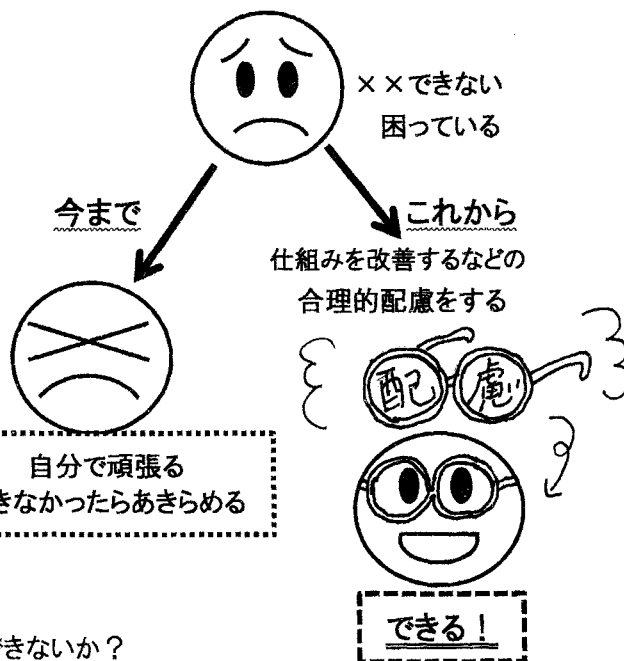
(書くのが困難ならば)試験解答をパソコンで入力する

(読むのが困難ならば)問題を試験官が読み上げる。

(パニック障害があるため)個室で試験を受ける。

などが合理的配慮の例となります。

試験を受ける側が自分の困難さを把握した上で、学校は、そのことを踏まえた合理的配慮をすることが出来るようになるのです。



苦手や困難解決に対する考え方

これまで、XX できないことが問題だ。

だから、XX 出来るように努力することが

求められるのみでした。これからは、

XX できないと生活や勉強が制限される仕組みが改善できないか?

社会や学校が合理的配慮をしなければならない。という考え方に変わります。

このような新しい考え方を国連が決めた条約に日本は 2014 年 1 月に同意し

(世界で 141 番目の遅い批准でした)、2016 年 4 月に法律として施行されます。

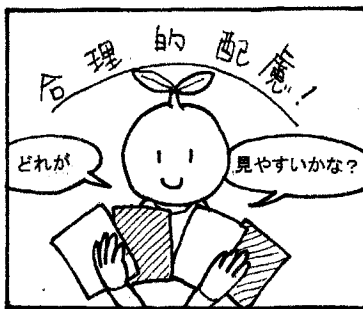
例えばこんなに生きやすくなる可能性が！！



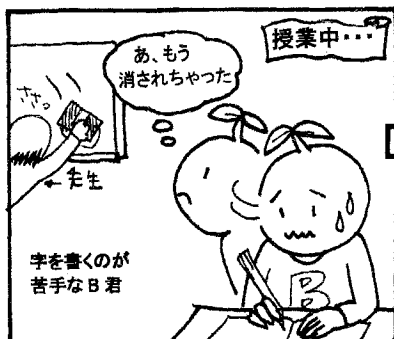
白い字と黒い字のコントラストがまぶしくて読みづらかったA君。



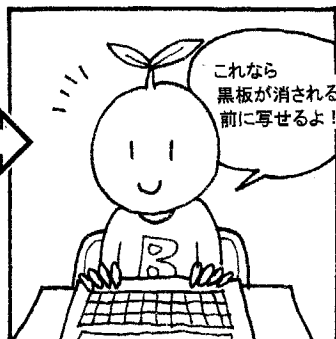
でも、カラーシートをかぶせると読みやすくなります。



授業やテスト、試験会場への持ち込みもできるようになります。



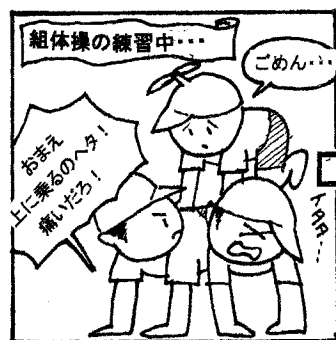
一生懸命写しているけど間に合いません。



でも、タブレットを使うと音声入力や録音で記録できるので、授業について行けます。



板書が苦手でも、デジカメで記録をとることもできます。



体の力の入れ方やバランスの悪さから、上手に乗れませんでした。



そこで、男の先生に下に入ってもらいバランスを取れるようになりました。

「合理的配慮」などと言われる前から黒板を携帯で撮って親の携帯に転送してくれたり、授業でルールを決めてタブレットの持ち込みを許可してくれたり、個々で工夫して合理的に考えてくださる先生もいるんじや。ありがたいの〜。



編集後記

「合理的配慮」について、配慮なら義務化しなくてもすでに行っているのでは？と問われそうな気がします。もちろん、すでに行っている配慮もたくさんあります。でも、配慮していただけることでこんなふうに助かる子供たちがいて、これまでこういった配慮が当たり前に出ないこともありました。例えば受験では、みんな同じ条件と環境で受けることでその公平さを保っていました。しかし近年、特別措置といった手続をする事で、聴覚過敏があれば個室での受験、視覚過敏があればカラーシートの使用、または色つきのテスト用紙を準備して下さるなど、さまざまな配慮をしていただけるようになりました。それは、そういった配慮でやっとみんなと同じ条件になる子供がいると分かってきたからでしょう。これからは、授業中にタブレットを使う子がでてくるかも知れませんね。これまでにない事で、違和感があるかもしれません。でも、それが出来ることでやっとみんなと公平になる子供がいるのです。これまででは、気づいていても前例が無い配慮になるため、なかなか対応出来ない場面もありました。でも、改めて義務化することで、学校や教育現場が合理的に配慮しやすくなり、特別な措置が必要な児童に対して、必要な配慮を普通に出来るようになります。それはこの子たちにとって、めがねや車いすと同じこと。合理的に配慮して頂けることは、公平なことであることを少しでも知って頂き、ご理解いただくと嬉しいです。

～ 最後まで読んでくださり ありがとうございます ～